

2019年3月期 第2四半期決算説明会 主な質疑応答

2018年11月5日
株式会社SUBARU

Q：米国の市場環境やディーラー在庫レベルを考慮すると、供給が足りなくなってくるのに、今後インセンティブ額を引き上げる計画としているのは何故か。

A：ASCENT や新型 FORESTER の投入で、台当たりインセンティブ額を相当抑えることができている。一方、OUTBACK はモデル経年化が進んでおり、想定以上に金利上昇が進む中、0%金利オファーを継続しており、そのような計画としている。

Q：米国の小売販売は好調なのに、なぜ通期の生産計画を国内海外ともに当初計画より下方修正するのか。

A：国内の新ペイント工場の立ち上げ、米国 SIA 工場での新型車 ASCENT の生産立ち上げに際し、上期の生産は当初の計画通りに進まなかった。下期は今回の完成検査問題を契機に国内工場でのラインの停止や操業状況の見直しなどを実施するため生産を減らす。

Q：来期以降の生産は正常化するという理解で良いか。

A：現段階では申し上げづらい。今期はしっかりと改善し、品質の確保を確認しながら、しっかりと製造ラインが流れるようにすることが最優先。無理が生じていた部分を改修した上で、従業員のモチベーションも保ちながら、生産性良く稼働していけるよう努力していく。

Q：原材料価格について足元の状況について。

A：期初計画では、原材料は相当高騰する見込みであったが、対前年では高くなっているものの、対計画では想定よりも低い状況。来期以降については、価格が下がるという想定はしておらず、特に貴金属などが高くなると見ている。

Q：今期のリコール費用総額はいくらか。今後増える可能性はあるのか。

A：通常個別のリコール費用については開示していないが、今期のリコール費用にはバルブスプリングのリコール 550 億円、追加の完成検査関連リコール 65 億円（上期 60 億円、下期 5 億円を計上）を含んでいる。今後に関して明確な予測は難しいが、品質関連費用としては、品質保証費用に含まれる SOA のワランティや製品保証引当金なども高くなってきている。

Q：完成検査関連やバルブスプリングのリコール等の対応で、今後費用が増える可能性があるのか。

A：人員増による費用増、また施設や設備等の取得による減価償却等の費用増はあるが、固定費が大きく増えて経営の足を引っ張るようなレベルではない。

Q：各リコール費用のキャッシュアウトのスケジュールについて。

A：今回新たにバルブスプリング、メーター関連、追加の完成検査関連でリコール引当金を計上しましたが、キャッシュアウトは作業が実施される毎となる。バルブスプリングについては1台あたりの作業に時間がかかること、作業開始がこれからであることから、他案件よりもキャッシュの出方は遅くなる傾向があるが、作業開始から概ね1年間で完了させたいと考えている。

Q：下期は高い品質コストが含まれていないのに、営業利益率が10%を下回るのはなぜか。中期経営計画の達成に向けて、この下期レベルは少し低いのではないか。

A：下期に特殊な費用は見込んでいないが、生産台数を下方修正している。ご指摘の通り、このままのペースでは中期経営計画の達成は厳しいと思う。北米市場の小売販売は非常に好調のため、今回の生産計画見直しにより、販売現場は在庫不足に直面する可能性が高くなる。持続可能な生産体制を早くきちんと構築して、市場ニーズに応じた台数を供給し、利益レベルの改善につなげられるように取り組んでいく。

Q：今年度末のキャッシュの見通しと自己株式の取得の予定について。

A：キャッシュの見通しについては、開示していない。キャッシュの持ち方については、今年7月に発表の中期経営ビジョンでご説明した方針より変更はない。自己株式の取得については、経営環境を注視しながら慎重に判断する。年間配当144円を継続させることが重要だと考えている。

以上